

農林漁業現地事例情報

15 魅力ある農山漁村づくり（中間農業地域）

農業の大切さを学ぶ「ひだみの農学校」の取組 [岐阜・美濃市]

情報収集官署名：東海農政局 中濃統計・情報センター
☎ 0574-25-3183

[取組主体]	
名 称	ひだみの農学校
取組の範囲	武儀地区（関市、美濃市、武儀郡）
開始年度	平成 16 年度
[補助事業]	
交付主体	国
補助事業名	産消連携促進事業
計 画 名	ひだみの農学校

1 取組目的と概要

（目的）

消費者と生産者が直接ふれあう講座や交流会等を開催し、消費者と生産者の連携関係を構築する。

（概要）

中濃地域武儀農業改良普及センターでは、平成 16 年 8 月から「ひだみの農学校」を開催している。

「ひだみの農学校」は、消費者と生産者が直接ふれあう交流会で、「ぎふクリーン農業」に取り組む現場で生産者を講師に、一般消費者が食料生産の大切さや喜び、経営上の課題などを学習する。

8 月 2 日には、都市部の消費者 8 人が参加し、関市の富野農業センター代表の指導により、枝豆の選定出荷作業の実習、生産農家から減農薬で枝豆を栽培する苦労や工夫の説明し、意見交換が行われた。

10 月 2 日には、消費者 9 人が参加し、関市西田原のきゅうり生産農家のハウスにおいて、きゅうり苗の定植実習、きゅうりの定植・いちごの葉かきなどの栽培管理の苦労や活着に神経を使うことなどを説明し、意見公開が行われた。

11 月 5 日には、消費者 6 人が参加し、武儀郡洞戸村にある JA めぐみの洞戸村キウイフルーツ生産部会長のほ場で洞戸村特産品キウイフルーツの収穫体験、キウイフルーツ栽培の気象被害や鳥獣害などへの対応を説明し、意見公開が行われた。

12 月 16 日には、本年度の農学校の締めくくりとして、10 月の講師であるきゅうり生産者と消費者 9 名が参加し懇談会を行った。懇談会では、「消費者の農産物に対する新鮮・安心などの要望がある一方、虫食いや規格外の農産物は購入してもらえない現実など、消費者と生産者の意識差について、実習体験を深めながら解決していく必要があること。」や「若い消費者や子供への食育が必要である。」等の意見交換が行われた。



< - 農学校の講義風景 - >

2 取組の効果

（効果）

消費者が実際の農業体験を行うことで、食料生産の大切さや喜び、経営上の課題などを消費者に伝えることができた。

3 現在の課題と今後の展開方向

(課題)

一層の相互理解を図るため、地域の一般消費者と生産農家との情報交換と交流の場を今後も設けていく必要がある。

(展開方向)

各市町村と連携を図り、引き続き農学校を開催していく。